

目次

- 第1章 体制転換分析の方法論—理論と現実の乖離
 - 1.1 イデオロギーの呪縛
 - 1.2 先験的思弁モデルの限界
 - 1.3 メタファー／アナロジーの錯覚
 - 1.4 「個別(具体)」と「一般(抽象)」
 - 1.5 経済学の陥穽:実物経済学から金融経済学へ
 - 1.6 GDP至上主義の誤り
 - 1.7 現象論の限界
 - 1.8 歴史主義の限界
 - 1.9 構造=変化の分析
- 第2章 体制転換の社会哲学—制度と規範
 - 2.1 国民経済計画の不可能性
 - 2.2 体制転換(移行):何から何へ
 - 2.3 交換(give and take)と配分(give, but obey)
 - 2.4 社会の自己崩壊
 - 2.5 体制負債
 - 2.6 自立的に機能しない社会構成体
 - 2.7 アポトーシス型社会とネクローシス型社会
 - 2.8 社会転換のアポリア
 - 2.9 社会的位相転換:「移行」と「転換」
 - 2.10 社会転換のイデオロギー
 - 2.11 ポスト社会主義のイデオロギー
- 第3章 体制転換の経済学—体制崩壊恐慌下の資本集積
 - 3.1 体制崩壊恐慌
 - 3.2 体制転換のアポリア
 - 3.3 クーポン民営化と直接投資
 - 3.4 フェイクモデルによる不毛な論争
 - 3.5 体制転換に付随する腐敗現象
- 第4章 ポスト社会主義の経済学—国家と市場の相克
 - 4.1 高い税負担が市場経済の発展を抑制
 - 4.2 借り物経済の構造
 - 4.3 国民経済の「国庫経済」化
 - 4.4 ポスト社会主義社会の腐敗現象
 - 4.5 国庫経済下の資本蓄積
- 第5章 体制転換の社会学—国庫経済下の不足現象
 - 5.1 消費生活の変化と新たな不足現象
 - (1) 消費ブームに隠された不足現象
 - (2) 食料品や建築資材の不足現象
 - (3) 専門技能者・職人の不足
 - (4) 医療分野の不足現象
 - (5) 火葬場の不足
 - (6) 役所の人手不足
 - 5.2 移民や出稼ぎがもたらす専門職・技能者の不足
 - 5.3 行列(不足)の社会心理
- 第6章 体制転換の政治学—旧体制のレガシーに縛られる政治
 - 6.1 社会党政権の性格と変遷
 - 6.2 SZDSZ消滅の背景
 - 6.3 FIDESZ政権の基盤
 - 6.4 FIDESZの思惑と制度改変
 - 6.5 FIDESZのメディア帝国再興と世論操作
- 第7章 ポスト社会主義とポピュリズム—難民・移民問題をめぐる東西分裂
 - 7.1 2015年民族大移動
 - 7.2 難民・移民の強制割当案
 - 7.3 ハンガリー政府とジョージ・ソロスの攻防
 - 7.4 ソロス財団への執拗な意趣返し
 - 7.5 EU批判の意味
 - 7.6 EUサミット決議の意味
 - 7.7 欧州議会の制裁決議
 - 7.8 左右のポピュリズム
 - 7.9 欧州東西分裂の社会的要因
- 第8章 体制転換の歴史学—20世紀社会主義を再考する
 - 8.1 東欧社会主義の現実
 - 8.2 ハンガリー動乱とカーダール政権
 - (1) ライク再埋葬式から動乱へ
 - (2) ソ連共産党の逡巡と決断
 - (3) カーダールの行方
 - (4) カーダール擁立とナジ・グループ拘束
 - (5) 二転三転したナジ・イムレ裁判
 - (6) 「動乱」の犠牲者と歴史的評価
 - (7) カーダール体制
- 第9章 20世紀社会主義と体制転換を総括する
 - 9.1 戦時社会主義
 - 9.2 経済改革の限界
 - 9.3 体制転換を理解する10の命題
 - (1) 第1命題 国家・党資産の再分配
 - (2) 第2命題 体制転換それ自体が腐敗を必然化する
 - (3) 第3命題 体制転換は無から有を創る過程
 - (4) 第4命題 工業再生は直接投資に依存
 - (5) 第5命題 国民経済の「借り物」経済化
 - (6) 第6命題 ゲストワーカー化する労働者
 - (7) 第7命題 社会規範・労働倫理の劣化
 - (8) 第8命題 未成熟な市場経済が支える「福祉国家」
 - (9) 第9命題 国庫経済が市場経済の発展を阻害
 - (10) 第10命題 国庫経済の罣
 - 9.4 社会的規範と倫理

